台湾および日本の健常小児でのＨＣＶ抗体検出

日本総合愛育研究所　平山宗宏
東京大学母子保健　　杉下知子

要約：日本の健常小児６－１２歳児２８７人と台湾の健常小児３－１２歳児２０９人についてＨＣＶ（C100-3）抗体を測定した。陽性は前者５例、後者６例で陽性率は順に１．７％と２．９％であった。

見出し語：　ＨＣＶ、ＨＣＶ抗体、ＨＣＶキャリア

はじめに：健常小児にはＣ型肝炎ウイルスcarrierがどの程度存在するのかを知るために、埼玉県の１小学校１年生から６年生287人と台湾台北市内の３歳から１２歳児209人を対象にＨＣＶ(C100-3)抗体の測定を行った。

対象及び方法：対象児の性、年齢別人数は表１及び表２に示すが、日本小児は、埼玉県内の１小学校の１年生から６年生287人について1986年、台湾小児は３歳から１２歳の209人について1984年に採血された。台湾小児については、Ｂ型肝炎ウイルス抗原抗体測定の目的で採取された460例の内血清が残存しているものを用いた。

ＨＣＶ抗体はオーソKitを用いてC100-3抗体の測定を行った。

結果及び考察：ＨＣＶC100-3抗体の検出状況は表３に示すように日本小児287例については陽性５例（1,7%）陰性282例（98,3%）、台湾小児209例については陽性６例（2,9%）陰性203例（97,1%）であった。陽性例についてOD値が＜1,0と1,0≦に区分してみたところ、日本小児では順に3例と2例、台湾小児では5例と１例であった。

台湾小児はＨＢｓＡｇ陽性率が16,5%（76/460）、ＨＢｅＡｇ陽性率が12,2%（56/460）、ＨＢｓＡｇ陽性者中の

ＨＢｅＡｇ陽性率は73,7%（56/76）であった。この様にＨＢＶの高いcarrier群であってもＨＣＶのcarrier率は今回の成績が日本小児の1,7%よりやや高い2,9%にとどまったということはＨＣＶの伝播様式はＨＢＶと異なることが示唆された。

対象血清　1　日本小児　埼玉県小学1－6年生　287人　（1986年採血）
　　2　台湾小児　台北市　3－12歳　209人　（1984年採血）

測定　オーソｋｉｔによるＨＣＶ（Ｃ-１００）抗体測定

表１　Ａ小学校児童血清の内訳

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
男子	38	23	9	13	37	25	145
女子	21	26	12	13	30	40	142
計	59	49	21	26	67	65	287

表２　台湾の血清の内訳

年齢	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	計
龍山区	2	3	7	16	7	17	8	10	11	9	90
南港区	0	14	25	15	13	9	13	17	13	9	119
計	2	17	32	31	20	26	21	17	24	9	209

表３　日本と台湾の健常小児のＨＣＶ(C100-3)抗体検出率

対象	年齢（歳）	採血年	ＨＣＶ抗体				計
			陰性	陽性	＜1.0	1.0≦	
日本小児	6-12	1986	282	5 (1.7)	3 (1.0)	2 (0.7)	287
台湾小児	3-12	1984	203	6 (2.9)	5 (2.4)	1 (0.5)	209

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:日本の健常小児 6-12 歳児 287 人と台湾の健常小児 3-12 歳児 209 人について HCV(C100-3)抗体を測定した。陽性は前者 5 例、後者 6 例で陽性率は順に 1.7%と 2.9%であった。